

## 令和7年度 徳島県立阿南支援学校 学校評価一覧表

重点課題	重点目標	担当分掌	目 標	評価指標
1 安心・安全な学校づくり	①児童生徒が安心して通うことができる学校づくり	小学部	児童が安全に過ごせるように、環境整備や情報共有を行い、事故防止対策の徹底を図る。	年度末における学部内アンケートにおいて、「児童の安全や健康に関して「情報共有ができた」「対策ができた」と回答した学部教員が、それぞれ全体の90%以上になる。
		中学部	生徒の心理や健康状況について情報共有し、必要に応じて迅速に適切な支援を検討し改善を図る。	年度末の学部内アンケートにおいて生徒状況や改善に向けた対応について「情報共有ができた」「適切な対応ができた」と回答した教員がそれぞれ全体の90%以上になる。
		高等部	生徒情報の共有及び事故防止対策の徹底を図る。	生徒の事故防止対策や健康状態等について、教員間での情報共有がでている。（学部における朝礼と学部会で毎回情報共有の機会をもつ。必要に応じて終礼を行い、情報を共有する。）
	②児童生徒、一人一人の人の権を尊重した教育の徹底	小学部	人権意識を高め、児童一人ひとりの人権を尊重した関わりや指導実践の充実を図る。	年度末における学部内アンケートにおいて、「ポジティブな関わりができた」「さん付け呼び名ができた」と回答した学部教員が、それぞれ全体の90%以上になる。
		中学部	生徒一人一人の人権を意識したかかわりや指導実践の充実を図る。	年度末の学部内アンケートにおいて人権を意識した対応について「適切なかかわりや指導ができた」と回答した教員が、それぞれ全体の90%以上になる。
		人権生活課	「自分を大切に」「人を大切に」「物を大切に」という3つの大切なことをキーワードにして生徒指導にあたる。	生徒間の諸問題の発生を減少させることができる。（各学部の集会などで、年間3回以上児童生徒に話をする機会をもつ。）
	③事故防止ができる環境整備の推進	人権生活課	通学時の事故防止対策を徹底する。	自力通学生が事故防止やマナー遵守を意識しながら通学することができる。（毎月の学校安全の日や長期休業明けに通学指導を行う。学校安全の日の自力通学生向けの集会において、安全に対する講話を年間10回以上行う。）
	④各種の災害に備える防災対策の充実	総務保健課	校内の防災対策の見直し・検討をし、必要な訓練および防災備品の設置を行う。	避難訓練の内容を吟味し、必要不可欠な内容に変更または追加をして、訓練を年間2回以上実施する。
				校内の災害用品について点検を行い、必要に応じて配置転換、または追加をするなどの確認作業をする。（年間1回以上）
				災害時の本校の役割等について、本校職員の理解を高める。（ミニ研修会を年間3回実施する。）
2 多様性を育むキャリア教育の展開	①児童生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた教育活動の実現	教務課	個別の指導計画作成において、児童生徒の実態や保護者のニーズ、生徒のニーズ等が反映され、見やすい書式となるよう見直し・検討を行う。	個別の指導計画推進委員会を年間3回実施し、現在の書式の見直しを行う。来年度、使用できることを目標とし、今年度中に新書式を作成する。
		図書情報課	異学年間の読み聞かせを実施し、読書に親しむとともに、児童生徒相互の社会性を養い、人間性を豊かにするための活動を推進する。	異学部間の読み聞かせ交流を年2回以上実施することができる。
	②卒業後を見据え、それぞれの成長と多様な学びに応じた教育活動の充実	進路指導課	生徒の実態や希望、進路先の状況等をまとめた就業体験を実施する。	就業体験を年2回以上実施する。
			児童生徒、保護者、教職員、関係機関との意思疎通と情報共有をはかる。	拡大進路相談会（高等部2年生）、進路説明会を実施する。
			保護者、地域、関係機関等、校外に進路についての発信を行う。	進路だより（10月、3月）、ホームページで進路学習についての発信を3回以上行う。
	③特別支援学校教員としての専門性の向上	研究課	本校の多様なニーズに応じた校内夏季研修会「あなたフェス」を企画・運営する。	教員への事前アンケートの結果をもとにした研修会を10以上開催する。
			個別のニーズに適切に対応するために全学部でコンサルテーションを活用する。	特別支援学校コンサルテーションを活用し、ニーズへの対応に活かすことができたとアンケートで回答した教員が全体の90%以上になる。
		図書情報課	自立活動の授業の充実を図るために、教員が活用しやすいデータベースを作成する。	グループの自立活動の実践について全てのグループのデータをデータベースに蓄積する。
			AI活用を中心とした教職員向けの研修を行い、円滑な校務の遂行や、ICT活用指導力の向上を図る。ひいては働き方改革に繋げる。	AIアプリを使用する研修を年間2回以上実施することができる。 参加した教職員のうち、80%以上の方が職務に「おおいに生かせる」「まあまあ生かせる」と答える。
3 地域とともにある学校づくり	①地域交流及び地域貢献活動の展開	特別活動課	児童生徒会役員を中心に、地域の人と交流を図ったり、児童生徒の作品や製品等を紹介したりする。	児童生徒会役員を中心として地域の人と交流を図ったり、学校の活動や児童生徒の作品、製品等を紹介したりすることができます。（地域との交流の機会を、年間1回以上もつ。） 地域のショッピングセンター又は施設で児童生徒の作品展示を行って、児童生徒の活動の様子を紹介することができる。（作品展を年間1回開催。）
	②地域と連携した教育活動の推進と理解啓発	図書情報課	保護者、地域等に対して分かりやすいホームページを構成し、学校の取組や児童生徒活動内容等の情報発信を活性化させ、開かれた学校作りを推進する。	各学部のページを12回以上、各課のページを年間2回以上更新する。 年間閲覧数250000回を超える。
		特別支援課	特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のニーズに對応したセンター的機能を發揮し、地域とともにある学校づくりを推進する。	特別支援教育巡回相談員活動において、地域（主に阿南市内）からの依頼に對して計画的に対応する。 阿南市特別支援連携協議会に年間3回以上参加し、地域との連携を深める。
			特別支援教育の理解と推進のための研修を実施し、知識・理解を深める。	地域の保育士や教員並びに県内の特別支援学校の教員対象に特別支援教育に関する公開研修会を実施する。